人文社会科学研究科

研究科のディプロマ・ポリシー(DP: 修了認定・学位授与の方針)

人文社会科学研究科は「人文・社会諸科学に関する高度な専門知識と研究遂行能力を有し、地域社会が抱える課題を解決へと導く能力を持つ人材の育成」という研究科の基本理念に沿って、各専攻で異なる学位を授与するため専攻ごとにディプロマ・ポリシーを策定しています。

研究科のカリキュラム・ポリシー(CP: 教育課程編成・実施の方針)

1. 1年次に各専攻の学生が共通して身につけるべき専門分野の研究に必要な基礎的スキルを実践的に養う専攻基礎科目を配置し、また、併行して、「新たな価値の創造や地域社会の問題解決」という研究科の教育理念に関連するテーマを分野横断的に考察し、幅広い思考力を涵養する研究科基礎科目を置く。
2. 専門科目では、専門科目(講義系又は理論科目)と専門科目(演習系又は実践科目)を1年次にバランスよく配置し、他コース他専攻の専門科目(講義系又は理論科目)を5又は6単位まで履修可能にすることで、専門分野以外の科目も幅広く履修させ、幅広い知識と俯瞰的思考力を身につけさせる。専門科目(演習系又は実践科目)には、実践的な研究能力を養成するために、プロジェクト演習、プロジェクト研究などの科目を置き、研究演習でも文献調査や実地調査など、研究実践に則した授業を実施する。
3. 修士論文の指導では、2年次に主指導教員による「研究指導」の科目を配置し、徹底した論文指導を行い、高い汎用性をもつ研究能力又は実践的研究能力を養成する。リサーチペーパーの指導では、実践的な提案や解決策等を示すことができる能力を養成する。修士論文又はリサーチペーパーの指導には、主副指導教員はもとより、専攻毎に実施される「構想発表会」「中間発表会」「成果発表会」を通じて、専攻及び研究科の複数の教員がかかわる。
4. 大学院修了後に実社会での活躍に求められるビジネスマインドを学生に修得させるためにキャリア形成科目を置き、インターンシップなど、修了後の希望進路に応じて受講できる科目を用意する。

研究科のアドミッション・ポリシー(AP:入学者受入の方針)

人文社会科学研究科の両専攻は、教育研究対象とする学問分野の特性に基づき教育目的や教育方法が異なるため、専攻ごとにアドミッション・ポリシーを策定しています。